

平成30年度行政事業レビューシート (総務省)

事業名	2020年オリンピック・パラリンピック東京大会及びラグビーワールドカップ2019を通じた地域活性化に要する経費			担当部局庁	自治行政局	作成責任者			
事業開始年度	平成27年度	事業終了(予定)年度	平成31年度	担当課室	地域振興室	室長 水野 敦志			
会計区分	一般会計								
根拠法令(具体的な条項も記載)	総務省設置法第4条			関係する計画、通知等	-				
主要政策・施策	地方創生			主要経費	その他の事項経費				
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	2019年にはラグビーワールドカップ日本大会が、2020年にはオリンピック・パラリンピック東京大会が開催される予定であり、これらの大規模な国際スポーツ大会を通じて、国内の人口交流の増加や国外からの多くの観光客の流入が見込まれている。この絶好の機会に、試合開催自治体にとどまらず、全国津々浦々を元気にすべく、既存の施策の活用や新規施策の立案等を行い、各地域における様々な形での大会受け入れの円滑化や創意工夫のある地域活性化の取組を支援していく。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	過去の大規模な国際大会(RWC2015イングランド大会やRWC2011ニュージーランド大会)等における各国の地域活性化のための取組の調査・分析を行い、RWC2019日本大会の開催を好機とした地域活性化のための効果的な取組を進め、スポーツ振興のみならず、地方創生への貢献、観光や国際交流の促進等社会的・経済的に有形・無形の遺産(レガシー)の創出に向けた有効な手法について整理する。 調査研究で得た知見は、大規模な国際大会の試合開催やキャンプ地受け入れを予定している関係自治体をはじめとする職員にむけて、スポーツ大会等の機会を生かして地域資源や特性を生かした創意工夫のある取組を行っていく上での指針となるような成果物(報告書)をとりまとめる。								
実施方法	委託・請負								
予算額・執行額(単位:百万円)	予算の状況	当初予算	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度要求		
		補正予算	-	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-		
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-	-		
		計	19	14	11	11	11		
	執行額	15	8	10					
	執行率(%)	79%	57%	91%					
	当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	79%	57%	91%					
	平成30・31年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	30年度当初予算	31年度要求	主な増減理由				
地方振興対策調査費		11	11	-					
計		11	11	-					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標	目標最終年度
								- 年度	31 年度
	平成31年度までに調査研究報告書において、20件の有意な海外事例を各関係自治体に提示する。	調査研究を通じて有意性が確認され、各関係自治体に提示した事例	成果実績	事例	15	8	6	-	-
			目標値	事例	10	5	5	-	5
		達成度	%	150	160	120	-	-	
根拠として用いた統計・データ名(出典)	ラグビーワールドカップ2019を通じた地域活性化についての調査研究報告書(平成30年3月 総務省地域力創造グループ地域振興室)								
成果目標及び成果実績(アウトカム)欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙1】に記載							チェック		

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	27年度	28年度	29年度	30年度 活動見込	31年度 活動見込	
	調査研究の対象とした先進事例数	活動実績							事例
		当初見込み	事例	8	5	4	4	4	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	27年度	28年度	29年度	30年度活動見込		
	先進事例1事例あたりの調査研究費 総事業費(百万円)／先進事例数	単位当たりコスト					百万円	1.9	1
		計算式	/		15/8	8/8	10/6	11/4	
政策評価、経済・財政再生アクション・プログラムとの関係	政策	II. 地方行財政							
	施策	2. 地方振興(地域力創造)							
	測定指標	定量的指標		単位	27年度	28年度	29年度	中間目標	目標年度
								-年度	-年度
				実績値	-	-	-	-	-
				目標値	-	-	-	-	-
		定性的指標	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標)				
					施策の進捗状況(実績)				
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係								
	ラグビーワールドカップ2019を通じた地域活性化に要する経費を措置することにより、2019年に向けて大規模な国際大会を契機として地方自治体が地域活性化をしていく手法についての調査研究が進むことが見込まれ、その調査研究結果を活かした取組が全国の関係自治体で行われることで、地域の活性化に寄与する。								
改革項目	分野:	-	-						
(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時	29年度	30年度	中間目標	目標最終年度	
				-年度			-年度		
			成果実績	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI	KPI (第二階層)		単位	計画開始時	29年度	30年度	中間目標	目標最終年度	
				-年度			-年度		
			成果実績	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	
		達成度	%	-	-	-	-	-	
本事業の成果と改革項目・KPIとの関係									
-									

事業所管部局による点検・改善

項目		評価	評価に関する説明				
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	ラグビーワールドカップ2019については、その成功に向けて政府として支援を行うこととされている。 大会の成功のため、開催自治体等の大会開催に向けた準備を支援するとともに、開催がもたらす恩恵を日本各地に波及させるため、地方自治体の地域活性化の取組を支援する必要がある。				
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	同上				
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	同上				
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。	○	外部委託事業者の選定については、見積価格の精査を行うとともに、総合評価方式を採用し、提案内容が調査目的に適合するものであるか確認している。				
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。	無					
	競争性のない随意契約となったものはないか。	無					
	受益者との負担関係は妥当であるか。	-					
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。	○	当初の想定よりも多くの有用な海外事例を提示出来ている。				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	-					
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○	調査に必要な経費と調査結果の周知等に必要経費に限られている。				
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-					
繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)	-						
その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。	○	複数の参考見積を精査のうえ発注を行っている。					
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。	○	当初の想定よりも多くの有用な海外事例を提示出来ている。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。	○	先行事例の調査研究、報告書とりまとめを効率的かつ効果的に行うために、直接実施ではなく、ノウハウを有する民間企業を活用した委託が適当と考えられる。				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	○	当初の想定よりも多くの有用な海外事例を提示出来ている。				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	○	当初の想定よりも多くの有用な海外事例を提示出来ている。				
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-				
	所管府省名	事業番号	事業名				
点検・改善結果	点検結果	<ul style="list-style-type: none"> 先進事例調査等の実施により、開催都市の取組を把握するとともに、2019年のRWC開催に向けた課題を抽出することができた。 ノウハウのある民間会社の活用(総合評価入札)により、研究の進捗・執行管理、報告書とりまとめを経済的かつ効率的に行うことができた。 					
	改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> 本事業の効果を高めるため、各自治体に対する調査結果の情報提供の充実を図る。 競争性を確保するため、引き続き総合評価入札による契約を行い、必要最小限の経費で最大の効果を生み出せるよう努める。 					
外部有識者の所見							
外部有識者による点検対象外							
行政事業レビュー推進チームの所見							
一部の改善内容	更なる経費の効率化を図り、適正な予算執行に努めること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
執行等改善	引き続き適切な予算執行に努める。						
備考							
関連する過去のレビューシートの事業番号							
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	-
平成26年度	-	平成27年度	新27-0001	平成28年度	0020		
平成29年度	総務省 (0020)						

※平成29年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)

総務省

[事業全体のスケジュール、]

↓

【一般競争入札(総合評価)】

A.民間会社

[研究会の運営、報告書の]

費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)	A.			B.		
	費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
その他	総務省からの請負業務 (現地調査費、報告書の印刷製本費等)	10	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-
計	-	10	計	-	0	

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載
チェック

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社三菱総合研究所	6010001030403	ラグビーワールドカップ2019を通じた地域活性化についての調査研究の請負	10	一般競争契約 (総合評価)	6	91%	

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

	ブロック名	契約先	法人番号	業務概要	契約額 (百万円)	契約方式	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上)
1		-	-	-	-		-	-	